



中たオルプロジェクト



中たオルプロジェクトとは？

不要なタオルを回収し、地域のシニア世代や高校生の皆さんらが雑巾を作成し、市内の小学校に寄付するというもので、(有)中田薬局が行っています。



シニアの人の指導を吸収して、
メリメキとミシンの腕も上達



7月11日に釜石小に
187枚の「中たオル」
を寄贈しました

目指すもの

● SDGsへの貢献

- ・小学校への寄付の際にSDGsの啓発授業に取り組みます
- ・地域全体へのSDGsに関する理解を醸成します

● 地域コミュニティの形成

- ・地域と学校が共同で製作することで、より密接なコミュニティを創るとともに、多世代間の交流につなげます

プロジェクトに関わる

Key Person

中田薬局元インター生として、この事業の中心的な役割を担う佐々木優奈さんと高校生らにミシンの使い方などを教える坂本慶子さんにお話を伺いました。

より良い地域を 自分たちで作る



中田薬局元インター生
岩手大学3年
佐々木 優奈 さん

雑巾制作は、初めは甲子地区のパッチワークサークルの皆さんに協力していただきました。そこから継続性を持たせる意味で、釜石高校の生徒さんにも協力していただき、今のような形となりました。予想以上に地域の皆さんと高校生が打ち解けて、コミュニケーションの形成の観点からも実施して良かったなと思いました。SDGsの推進のためにも、こうして取り組みを小学生や高校生に紹介しきつかけを作つてあげることで、いずれは自分事として捉えてもらえばと考えています。最終的には、自然にこうしたコミュニケーションができるよう実践し、より良い地域を自分たちで作っていくという意識が芽生えていけばいいなと思います。

SDGsについてできることが一人一人がSDGsについてできることを実践し、より良い地域を自分たちで作っていくという意識が芽生えていけばいいですね。

雑巾制作は、初めは甲子地区のパッチワークサークルの皆さんに協力していただきました。そこから継続性を持たせる意味で、釜石高校の生徒さんにも協力していただき、今のような形となりました。予想以上に地域の皆さんと高校生が打ち解けて、コミュニケーションの形成の観点からも実施して良かったなと思いました。SDGsの推進のためにも、こうして取り組みを小学生や高校生に紹介しきつかけを作つてあげることで、いずれは自分事として捉えてもらえばと考えています。最終的には、自然にこうしたコミュニケーションができるよう実践し、より良い地域を自分たちで作っていくという意識が芽生えていけばいいなと思います。

私は元々、公民館で「同世代の交流の場」ということで、パッチワークの教室をやっていました。そこで、この「中たオル」の取り組みをやってみないかと声を掛けられ、活動が始まりました。これまで近くに住んでいても、高校生との交流の場は無かったので、自分の孫と同じ世代の生徒さんたちにミシンを教えることは自分たちも楽しいですし、エネルギーをもらっています。孫にもこの活動を話したら「SDGsの取り組みをしてるなんて、おばあちゃんすごいね」と言われ、うれしい気持ちになりました。今後も「一日一善」の気持ちでやつていこうと思います。このコミュニケーションが中学生などの違う世代にも広がつていけばいいですね。

一日一善の 気持ちで



甲子地区パッチワークサークル
ひまわり会会長
坂本 慶子 さん